

ケガしない、ケガさせない!!

「誰も危害を受けない、  
遭わせない」

C212.121102

Ver.2

QC

# 問題を集約して解決する

片山安心コンサルタント

# QCミーティング 40分

	手順	標準時間 [分]	実際の時間
1	共通の問題点を出す ・ 気づいた変化や困りごと、解決したいこと	1	
2	問題の起きる要素を付箋に書き出す ・ 困りごとになる経過(原因) ・ 4M(人,機械,材料,方法)でイメージする	8	
3	同じ様な要素の付箋を集める	1	
4	4M(人,機械,材料,方法)を基に分類し、 要素の不足を補い、特性要因図を作る	6	
5	要因の数を集計してパレート図を書く	2	
6	パレート図から主要因に対策の立案する	10	
7	対策の効果を見るチェックシート作る ・ 項目ごとに重要度を点数化する ・ 基準値に○×で点数を加算し、レベルを表す	12	

一度に解決しようとせず、分かることだけをまとめ、回数を重ねていく。

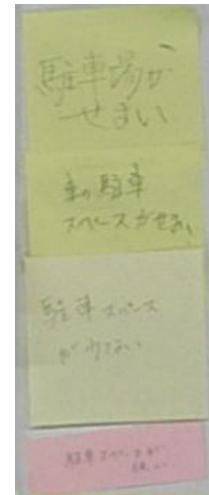
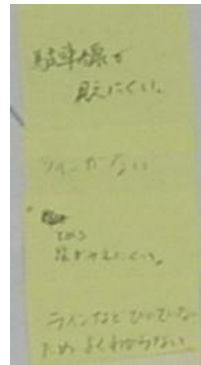
1. 共通の問題点を決める
2. 問題の起きる要素を付箋(ポストイット)に書き出す
3. 同じ様な要素の付箋を集める
  - ① 要素の数が20件以上出る様に、1人3件以上などの下限を設定して、
  - ② 付箋1枚に1件ずつ書き出してもらう。

問題点

駐車場のマナーの悪さ



要素を書く

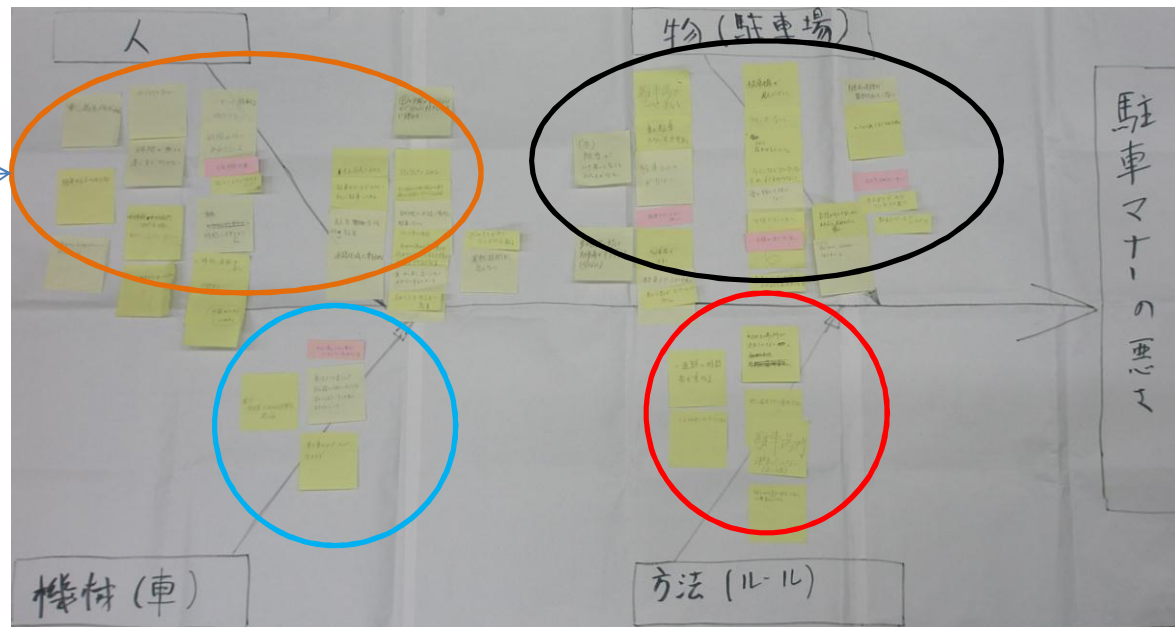


同類に  
まとめる



#### 4. 4M(人,機械,材料,方法)を基に分類し、要素の不足を補い、特性要因図を作る

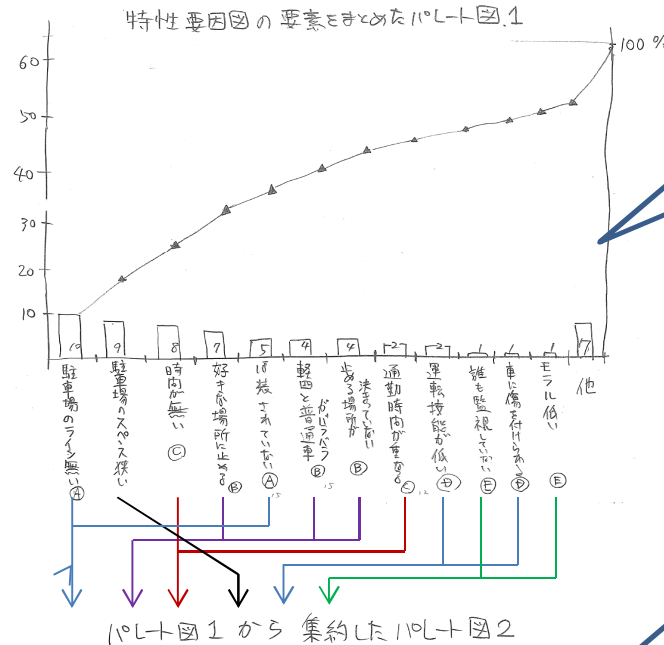
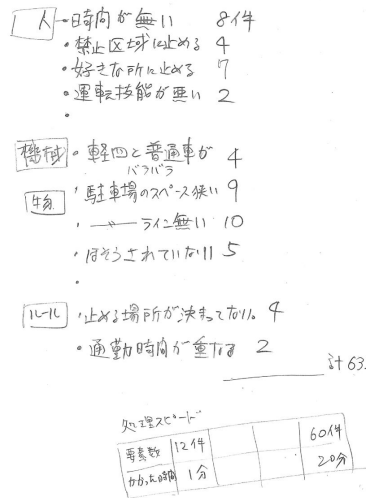
最初は雰囲気  
で貼り付ける。



- ① 問題の要素を書き出して、特性要因図に張り付けていきます。
- ② 貼り付けたものを、4Mなどの大項目に合わせて移動します。
- ③ 分からない時は、「その他」=「人」の分類にして、全体を見て調整する。

## 5. 要因の数を集計してパレート図を書く

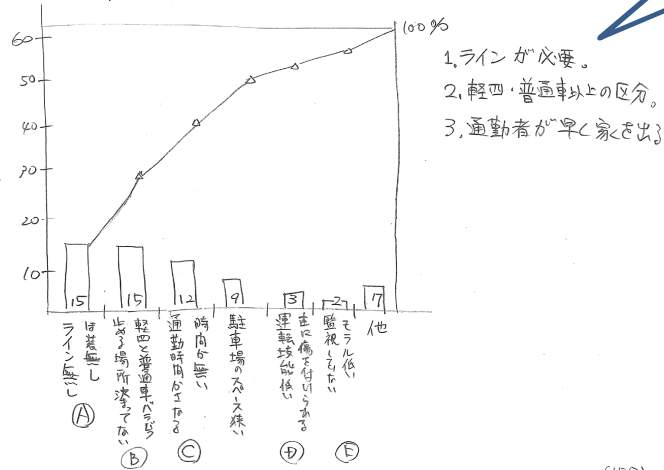
## 6. パレート図から主要因に対策の立案する



顕著な差がなければ、要素を絞る。

要素から対策を立てる。

- ① 大きなもの(数の多い)をすべて並べてみる。
- ② 同類をA, B...Eでまとめていく。
- ③ 要因から原因を予測して対応を考える。



## 7. 対策の効果を見るチェックシート作る。

- ① 最初に出しあった要素から、  
チェックシートの項目を作ります。
- ② 効果の測定は数値にし易い  
ものを選び、測定基準を決めます

馬主車場の状態を知るチェックシート

項目	点数	対策前	対策後	差
<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の方向は同じ (←列の反対向の車/台数)</li> <li>・禁止区域に止まっている(←違反車数)</li> </ul>	左に比率 左に			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の間隔が広すぎる。(1台分以上)</li> <li>(←列のNG車数/台数)</li> </ul>	左に			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・車種の区別有るか</li> <li>・ライン・ホールの目印有るか</li> <li>・馬主車場の内に障害物有るか</li> <li>。</li> </ul>				

### 改善のポイント

- ” チェックシートで、改善前の状態、改善後、そして浸透した後の状態を測定し、  
点数の変化で改善状態を判断します。
- ” 改善は一度に何項目も行うより、最大2項目と少しずつ改善すると効果が判る。

以上